

〔水稻〕

1. 作付の概況

九州における平成 29 年産の水稻作付面積（子実用）は 16 万 3,100ha で、前年産に比べて 2,600ha（対前年産比 1.6%）減少し、うち、主食用作付面積は 15 万 8,700ha で、前年産に比べて 2,600ha（同 1.6%）減少した。品種毎の作付面積を見ると、「ヒノヒカリ」及び「コシヒカリ」は近年変動が小さく、それぞれ九州の作付品種の 47%と 10%を占めた。その他、「夢つくし」、「元気つくし」、「夢しずく」、「さがびより」、「森のくまさん」、「にこまる」、「あきほなみ」、「ひとめぼれ」、「つや姫」、「おてんとそだち」、「なつほのか」等多数の品種が県毎に作付けされている。

2. 作柄の概況

九州における平成 29 年産水稻の作柄は、梅雨明け以降高温多照に経過したものの、9 月中旬以降の日照不足により登熟が抑制されたこと等により、九州の 10 a 当たり収量は 510 kg（前年産に比べ 3 kg 増加）となった。九州全体における作況指数は「101」で「平年並み」であった。県別の作況指数では、鹿児島県が「100」で、長崎県、大分県と宮崎県が「101」の「平年並み」で、福岡県、佐賀県と熊本県が「102」で「やや良」であった。

3. 生育の概況

1) 普通栽培水稻

梅雨明け以降、高温多照で経過し、穂数は「平年並み」から「多い」となったものの、登熟が 9 月中旬以降の日照不足に加え、一部地域では台風に伴う倒伏やトビイロウンカ等の被害の発生により、福岡県及び宮崎県は「平年並み」、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県及び鹿児島県は「やや不良」となった。このことから、10 a 当たり収量は、福岡県は 509 kg（作況指数「102」）、佐賀県は 531 kg（同「102」）、長崎県は 495 kg（同「101」）、熊本県は 527 kg（同「102」）、大分県は 506 kg（同「101」）、宮崎県は 503 kg（同「99」）、鹿児島県は 490 kg（同「98」）となった。

2) 早期栽培水稻

主産県である宮崎県、鹿児島県ともに 5 月以降の気温が平年並みに経過し、多照であったことから穂数が「やや多い」となったことに加え、7 月上旬以降おおむね天候に恵まれたことから登熟が「やや良」となった。作柄は、宮崎県が 10 a 当たり収量 494 kg（作況指数「103」）、鹿児島県が同 472 kg（同「107」）となった。

4. 被害の概況

普通栽培では、気象被害は、一部地域で7月の九州北部豪雨による土砂流入、冠水等の発生、台風第5号による葉先裂傷等の発生、台風第18号による土砂流入、冠水と倒伏の発生が見られた。病害としては、いもち病、紋枯病等が見られたが、平年に比べやや少ない発生となった。虫害等では、一部地域でトビイロウンカ、カメムシが多い発生となった。総体的に被害は平年並みの発生となった。

早期栽培では、気象被害として、台風第5号の影響で、一部地域で倒伏の発生が見受けられた。病害は、いもち病、紋枯病等の発生が平年に比べやや少ない発生となった。虫害等では、カメムシの発生が見られた。総体的に被害は、平年に比べやや少ない発生となった。